とくいく「禅語」十三

主人公（しゅじんこう）

主人公は、映画やドラマの主役を指す言葉として使われていますが、**禅語の主人公という言葉の意味は「自分のなかにいる本当の自分」という意味です。**中国の瑞厳和尚（ずいがんおしょう）という僧（そう）が、自分に対して声をかけ、自分が答えるという問答をしていたことから、主人公という禅語が生まれました。

現代では個性的ということを人と違っていたり、奇抜であったりする意味で使われることがありますが、**個性とは文字通り「個々の性質」のことで、読書の好きな人が読書をすることを、じつは個性的と言います。つまり個性的な性質に沿っているからです。**ですから、**人と違うこと、変わったことをすることが個性なのではなく、自分の心に沿うことが個性という意味です。**同じ行為をする人が何人いても構いません。やっていること似ていても、人と一緒でも、人はそれぞれ個性的な存在なのです。自分が自分として存在している時点で、そのままの自分が個性なのです。

一時期、一人旅の女性が本当の自分を捜しに行くといった、自分探しという言葉がもてはやされましたが、**禅の教えでは、「自分を探しているお前は、自分でなくて何なのだ。自分は自分として今ここにちゃんと存在しているだろう。その自分に目を向けずに、どこを探して自分を見つけられるというのか。はっきり自分を見よ。外にばかり目を向けていると、肝心な内側が見えなくなってしまう。」**

瑞厳和尚が、自分自身に問いかけし問答をしていたのは、本当に重要なのは外でなく内にあるということ示すものでした。あれこれ思い煩い外に目を向けないで、自分の心に沿って素直に生きれば、人は自ずから「主人公」となるわけです。**子供たちの稽古指導をしていると、そういうことを実感することがよくあります。元気よく挨拶や返事ができる子、稽古を元気あふれるようにする子、蚊の鳴くような声で挨拶や返事をする内気な子、なかなか覚えられなくてもひたむきに稽古をする子、どちらの子も愛おしく感じます。なぜなら、その子の本当の姿（主人公）はどちらも個性的（素直な心）だからなのです。**

まっすぐに伸びる竹は、気をてらう必要もなく、まっすぐに伸びることが個性。曲りながら伸びる茨（いばら）は、真っ直ぐ伸びようとしなくても、曲がりながら伸びるのが個性。珍しいことや変わったことをすることが個性的なのではなく、自分らしく生きることが個性的なのであり、自分らしく生きている自分こそが「主人公」なのです。